



妙たえの光ひかり

通刊79号 復刊59号

2007年9月18日(季刊)

角田山妙光寺 発行

〒953-0011

新潟市西蒲区角田浜1056

TEL 0256-77-2025

秋 明 菊

秋の境内は花が少なくなつてやや寂しくなる。そんななかで、色も形も清々しく秋の風情を感じさせてくれるのがこの秋明菊。九月半ばから白や淡いピンクの花びらが見え、その形がなんとも素朴で美しく、十月まで咲いてくれるのが嬉しい。

広い境内は管理が大変で、手のかかる花や木は育てきれない。その点この花は手がかからず、いずれ増えて一面に咲く風景を想像すると楽しくなる。藤沢のSさんのお庭から株分けしていただいたもので「俺が大好きな花の一つだね、京都の貴船辺りに咲いているから貴船菊とも言うんだ」との言葉とともに、形見になってしまった。

秋の寺に相應しいのか、そんな歌が多いのもうなずける気がする。

観音の影のさまなる貴船菊

阿部みどり女

歌刻む仏足石や貴船菊

下村かよ子

当たり前のこと

小川英爾

毎年お盆の十四、五日の二日間、お経回りの応援にきてもらっている東京江戸川区の宣要寺ご住職の成川上人は、私より十才若いから四十五才。日本で不要になった老眼鏡を集めては、スリランカに贈る運動の中心的活動をしている行動派の住職だ。

池上本門寺で修行していた学生時代に、お手伝いということであてくれたのが最初だった。「妙光寺さんの檀徒さんは広範囲に点在するから、お盆の暑い中を限られた日数で回るのは大変で、最近の若い坊さんでは一度きたら懲りて翌年からは来ないですよ」と言いつつ、もう二十年以上欠かさず来ていただいている。それほど責任感の強い、生真面目な性格だ。その成川上人が今回こんな話を聞かせてくれた。

ある日突然にお寺を訪ねて来た男性が「成川、俺のこと覚えてるか？小学校で同級だった○○だよ。突然で悪いんだがお前のことを思い出して、頼みを聞いて欲しくてやって来たんだ。聞いてくれよ。俺の町内に住む年老いた母

親と二人暮らしで、コンピュータの操作を生きがいにしていてる男がいるんだ。最近彼が失明を免れないという悪い目の病気に罹り、生きる気力を失くしてしまった。俺も心配で気にかけていたんだが、京成電車に飛び込んでしまった。他に家族もないので、民生委員さんと福祉のお金で葬式をしてやろうとアパートに行ったら、部屋に母親と思われる遺骨と戒名の書いていない白木のままの新しい位牌があった。そこで今回、本人と母親の二人の葬式にしてやろうと思ったのさ。でも福祉の金では本人の分だけしか出せないという。どうだろう住職のお前に一肌脱いでもらい、協力してもらえないか」。

成川上人「よしわかった。なんでもするぞ」と応え、既に民生委員さんの手で遺体が安置された葬祭場に向かった。その夜、民生委員と友人と成川上人の三人でお通夜、翌日火葬して遺骨をお寺の本堂に安置。そしてその翌日、本人と母親、二人の遺骨を並べて葬式を始めようとしていたそのとき、十人ほどの人たちが集まってきた。どこかで

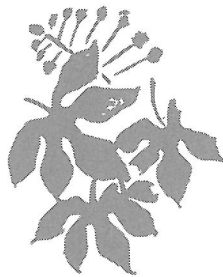
話を聞きつけた同じ町内の人たちだという。

「話を聞いて気のどくに思ってたね、俺たちもなんか力になりてえ」と、おすし屋さんのオヤジが寿司を、酒屋のオヤジが酒を、花屋の奥さんが花を、それぞれが何かしらを抱えて、さらにわずかだけどと香典の包みまで。急きよ参列者の増えた葬式になった。「皆他人なのに、なんだかとても心のこもった法要だった」と成川上人はいう。その後皆で持ち寄った品々を囲んでのささやかなお齋が行われた。

数日後、その同級生がお寺を訪ねてきて「葬儀費用を清算したらこれだけ残ったから、悪いけどお布施ということの本堂の仏様にお供えしてくれないか」と五万円余りを出した。さらに「成川、お前がすぐに快く引き受けて全部段取りしてくれたお陰で本当に助かったよ。俺の町内では宣要寺の住職は立派だってもっぱらの評判だよ。「とんでもない、俺は坊さんとして当たり前のことをしただけだよ。それよりすし屋のオヤジさん始め、町内の人たちこそすこいよな、他人の為にあそこまで思いやることのできるなんて」と成川上人は答えた。

確かに、当たり前のことがなかなか出来にくい社会でもあるし、何よりも現代の日本にこんな人たちがいることにホッとさせられた。江戸川区といえは隣が葛飾、フーテン

の寅さんを思い出す。柴又の御前様も題経寺という日蓮宗のお寺であることをご存知の方はどれほどおいでだろうか。千葉にかけてのあの辺りには日蓮宗のお寺が多く、矢切の渡しも有名で、皆さんと電車を使って一日参拝して巡るのもいいなと思った。(ご希望でしたらお知らせください。来春にでも計画しますか)



スーパー婆ちゃん？



新潟西区

石山ワカさん（八十九才）



ドンドンドン、お題目に合わせてワカさんの叩く太鼓の音が、本堂に力強く響く。とても八十九歳とは思えない迫力で、リズム感もとてもいい。若い頃覚えたとお経もしっかりしている。この九月のある日、長年連れ添った夫賢一さんの七回忌をお寺で営んだ法要でのこと。

血圧がやや高めなのと、少し耳が遠く

なったかなという程度ですこぶる元気。医者にも用がないという。さすがにバイクは十年ほど前に止めたが、スーパーへの買い物も、週二、三回行く市民温泉への三十分の道のりも自転車で難なく行ってしまう。同居の次男夫婦が共稼ぎなので、台所仕事も一手に引き受けているそうだ。

農家に生まれたワカさんは妙光寺の先代住職の世話で、旧巻町に文具店を営む石山賢一さんと一緒になった。賢一さんは紙屋を始めた父親の急死で、二十八歳で後を継いだ。そのうえまだ幼かった五人の弟たちの父親代わりにもなり、ワカさんは姑に仕えながら、二人で苦勞を共にしてきた。元来が元気な性格で、バイクで実家の手伝いに行ったり、町内の妙光寺檀徒の集まりであるお講に出たり、

本山参りに三回参加して七十三歳のときも二千mの七面山に登った。

やがて店を長男に任せましたが十年ほど前に負債を抱えて倒産。近所の人たちが皆心配するなか、夫婦で新潟市内の次男の元に身を寄せた。それでもお参りがしたくて、長男の運転する車で、暗くなつてからお寺に、お墓にお参りを続けたという。まもなく賢一さんが体調を悪化させ、入院。ワカさんは食事の世話から車いすでの散歩まで、病院に通うのが日課だった。温厚な賢一さんは甘い物を好み、ワカさんの看護を喜んだが、六年前に先立った。奇しくも父親と全く同じ命日でした。

「親を迎えに来たね」と思ったと言う。いまアパートで次男夫婦と暮らし、お仏壇へのお参りを欠かさない。明るい性格もあって、賢一さんの弟家族からも慕われる。「自分でも驚くくらい元気ですよ。腰ひとつ痛いなんてこともないんだからありがたいです。仏様のお陰だと思っっています」とにこやかに語ってくれた。

NHKテレビで放送 他



夏の行事

記録的に雨の多かった七月だったのが八月一日を境に一転、またまた記録的な



墓前法要へ



本堂でのお盆法要

猛暑の夏でした。その一日、お盆のお墓参りと施餓鬼法要にたくさんの方々のお参りをいただき、営みました。事前にお申し込みいただいた施餓鬼塔婆も三百本

あまりとなり、書き落としがないよう細心の注意を払って準備しました。五十音順に並べればご自分の塔婆を探しやすいのですが、受付した順に書いていかないと間に合わないし、並べ替えるのも容易ではないのでご了承ください。

また最近では十三日にお参りされ、お寺に寄つてくださる方が増えています。この日は檀徒のお宅のお経回りの体制になっており、受付も不在だったりしてご迷惑をおかけしますこと、ご理解ください。八月十九日は例年岩屋の七面様の祭礼でした。暑い日でもあり年々参拝者が減少していますが、おいでの方は熱心な方ばかりで、しばらくこの日で行く方針です。

中越沖地震

七月十六日、中越沖地震が起きました。住職は東京のお盆の最終日で地下鉄が止まり、地震を知りました。翌々日戻り、少し落ち着いてから被災地の檀信徒、安穩会員宅に電話連絡し、家の倒壊といった大きな被害に遭われた方もないことを

確認しました。改めまして、被災地の皆様にお見舞い申し上げます。

しかし、同じ日蓮宗のお寺三カ寺の本堂が倒壊し、その他大きな被害の寺もあります。構造的に古い本堂は地震に弱いようです。それによる人的被害はありませんでした。

以上を被災地以外の皆様に直接お知らせし、日蓮宗新潟東部宗務所が主体となって、被災地の寺院および住民の方々の義援金募集の願いをさせていただきました。九月十日現在二二一、六二〇円となっております。ありがとうございます。十一月末まで、募金箱を玄関受付に設置しますので、ご協力お願いします。

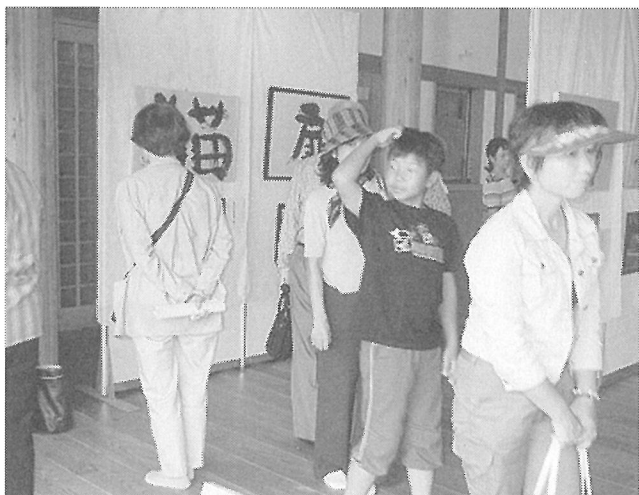
年会費お礼

前号にあわせて今年の年会費のご案内を差し上げました。おかげさまで早速にご送金いただきました。とてもスムーズに会計処理ができています。とくに昨年手違いがあつて多くの方に迷惑をおかけしたので、会計担当が細心の注意を払いました。ご協力感謝申し上げます。まだ

の方はお盆までのお願いですので、お早めをお願いします。

フェスティバルと絵本原画展

九月一日の第十八回フェスティバル安穩の前一週間、乾千恵さんの絵本原画展を開きました。事前の告知をマスコミに依頼しましたが、中越沖地震関連のニュースが多く十分とはいえませんでしたが、しかし色々な方のご協力で、図書館や画



本堂会場の書を見る人々

廊等にチラシを配布していただきました。

そのかいあつて、事前の六日間で感想を書いてくれた方が六十名。三人に一人が書いてくれたとすると、一八〇人の方が来場されたと想定しています。客殿に大型パネルを仮設して、そこに書と写真と谷川俊太郎さんの文章を展示。外は暑いのですが爽やかな風が吹き込んで、とても気持ちのいい空間でした。

感想の一部です。「力強い乾さんの書と写真の風景をいつまでも見ていたいくらいです」「楽しい！」「すばらしいものを見せていただきました。ありがとうございます」
フェスティバル安穩は九ページでご報告します。



NHKテレビで放送

会員の方が今回のフェスティバルに初めて参加した姿を中心に、安穩廟が関東甲信越地域のNHKテレビで紹介されます。九月二十八日（金）午後七時三十分、NHK総合テレビ「新トーキョー人の選択」という番組の中で、後半に五分ほどの予定です。

事前に何度も打合せを行い、多くの方に取材協力をお願いして快く受けていただきました。撮影もたくさんありました。でも実際の放映はわずかというのがテレビのようで、ちょっと残念です。ご協力いただいた方にお礼申し上げます。

去る九月五日には地元BSN新潟放送でも紹介されました。こちらも一年近くかけてあちこちで収録したのですが、放映は六分ほどでした。それでも一連の放送で、残り少ない「杜の安穩」の申込ペースがさらに速まると思われれます。

前寺建設計画の状況

建設予定地に対する法律上の規制があ

り、隣地関係者の同意印鑑を集めることに苦しりましたが、檀徒役員のご尽力でそれも終わりました。九月早々に市役所と県庁に申請書類を提出、こちらは事前協議で基本的に承認を得ていますので時間の問題と思います。

早ければ十一月には着工できる見通しです。ただ工事が冬期間にかかるのはまずいので、工程の調整を設計士と相談中です。次号で詳細をお知らせします。一方で前寺に安置する旧本堂の仏像一式は、お陰さまで修復が進み年内には完成します。その後は修復の仏具店に預かってもらう予定です。

住職、鎌田の復調

住職の体調不良と鎌田の入院手術を前回お知らせしまして、皆様には大変ご心配をおかけしました。お蔭様で鎌田は予定通り退院して、現在は定期的な通院で事なきを得ています。住職は一時の最悪な体調からはすっかりよくなりましたが、年齢的なこともあり、完全回復までもう少し無理はするなと医師の助言で

す。お心使い感謝申し上げます。

仏前結婚式

妙光寺本堂での仏前結婚式はこれまで数回ありますが、新しい本堂では初めてです。住職の兄の三女が長くアメリカで仕事をしていますが、このたびアメリカ人男性と結ばれることになりました。相手の男性が仏教に惹かれているそうで、二人からの申し出で十一月三日午後、妙光寺本堂で結婚式を行います。アメリカから親族十五人も参列すること。見学？も自由と了承済みですので、お時間のある方、一緒に祝ってあげていただければ喜ぶと思います。



お会式（おえしき）のご案内

日蓮聖人のご命日（十月十三日）の法要を「お会式」といい、今年には七二六回忌となります。妙光寺は日蓮聖人が佐渡に島流しの途中、嵐の為に角田浜に立ち寄られたご縁で建てられました。往時を偲ぶ法要にぜひご参列ください。

あわせて、希望者に生前戒名をお授けする式、またご希望がありましたので記念法話に戸沢宗充法尼をお招きしました。

十一月十一日（日）

午前十一時 日蓮聖人第七二六遠忌法要

第六回授戒会（じゅかいえ）

昼十二時 おとき

午後一時 法話 一華結社 戸沢宗充・法尼

（とざわそうじゅう・ほうに）

四十六歳で在家から尼僧となり、現在家庭内暴力、夫からの暴力を受ける女性の駆け込み寺を運営。マスコミで報道されるなど、協力者が増えているものの、未だその運営は厳しい。

参加費用 お一人 三千円（他にお気持ちで野菜、お米、

お明し等々お持ちくださる方歓迎です）

参加申し込み 準備の都合上十一月五日までに地区世話

人か、直接妙光寺まで。費用は当日受付でお

願います。

送迎バスはありません。

生前戒名を授けます

戒名とは仏様の弟子となった証として生前に付けるのが本来で、葬儀の際に戒名を付けるといふのは間に合わせです。日蓮宗では法号と呼びます。世間では戒名料とかいって、お金で買うがごときに思われていますが、妙光寺ではこれまでもこれからも経費以外は無料です。

ただし檀徒であることが条件です。安穩会員でも跡継ぎの有無に関係なく申し込みは可能ですが、その後は檀徒（年会費一万円）になっていただきます。次の代がいた場合、その時点で本人が安穩会員か檀徒かを選択するもので、引き続き檀徒になることを強制することはありません。

十一月十一日（日）午前九時集合。研修を受けた後、式に

参列。午後三時ころ終了。

特別な服装は不要ですが、法事に出席するような感じでどうぞ。

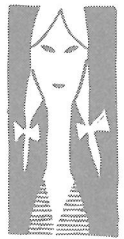
式の前日の研修とは、日蓮宗の基本についての住職のお話です。費用として三万円を、当日お納めください。戒名とお名前を刺繍した略式の輪袈裟（わけさ）、それに数珠を記念に差し上げます。

戒名にはお名前の一文字かご希望の文字を入れます。

お申し込みは十月二十五日までにお願います。折り返し、詳しい案内書を差し上げます。

体調が悪くてお寺まで行けなという方はご相談ください。

フェスティバル安穩報告



今年は例年よりやや遅く九月に入ってから開催で、八月に予定していた方にはご迷惑をおかけしました。また交流パーティーを休止したことで、「残念です」



との声もいただきました。その一方、涼しくてとても過ごしやすく、また日暮れが少し早まった分、法要に献灯いただいた二七〇本の大ロウソクの灯りが際立ち、とても幻想的でした。さらに交流パーティーは手作りなだけに裏方の負担が大きいのですが、それもなくスタッフがゆったり動けたことで、全体がいつも以上に穏やかな雰囲気になりました。献灯戴いた方々には改めてお礼申し上げます。

天気予報は当日もその前後も雨の予報。しかし見事にはずれて薄曇りのなか、初秋を思わせる爽やかな風が吹き、十八年間一度も雨に遭わない記録を更新しました。一八五人の方が受付され、日除けテントを張った主会場の院庭に集い、ギターの弾き語りに、乾さんや会員檀信徒



の語りに耳を傾けました。本堂には乾さんの書と写真を展示して、皆さんが見入っていました。仏教タイムスという主に寺向けの週間新聞に掲載されましたので、同封して詳細をお知らせします。

会員スタッフ、角田浜檀徒を中心に四十人以上のお手伝いをいただき、会場設営、受付、進行、撤収と本当にスムーズに運びました。取材のNHKの方が「参加者も楽しそうでしたが、お手伝いの



方々が活き活きと動いているのがとても印象的でした」と話されたのです。ありがとうございました。「せっかくここまですべてやっていますから、この倍くらいの参加者がいてもいいのよね」と言う、スタッフの言葉もあります。県外からも多数参加いただきましたが、もっと皆さんから足を運んでいただけたらと願っています。

後日戴いたお手紙の抜粋です。



「プログラムのギター演奏は、亡母の口ずさんでいた月の砂漠や、娘が折にふれてギターをつまびいていた曲のいくつかだったので、懐かしさと切なさで胸がいつぱいでした。でも心ゆくまで故人を偲ぶことが出来て、心満たされた一日でした。有難うございました」。



「願いまーす!!」

小川 なぎさ



セミの声が小さくなったと気づく頃

ようやく夏の疲れが癒えてきたのか、少しづつやる気を取り戻しています。夜の涼しさは体がとても休まります。夏の行事も無事に終わり、お参りに参加された方々、そして何より暑い中、裏方として働いて下さった大勢の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございます。賑わいのある夏の寺は良いものですね。

また前回お話ししました会費の納入についてもおかげさまで順調に進んでいます。市町村合併に伴う住所変更もおかた終わったと思いますが、修正されていなかった方は引き続きご協力ください。

とことん疲れると何をするのもおつくうになって、体の中心がゆらゆらと

して不安定な感じがします。たくさん睡眠をとって回復するように努力してみるのは、朝の爽快感はなく、今日一日のはじまりがとても不安なものになり、どうしてよいのか・・・楽しいことも考えられず、食事のしたくなんてぼーっとしながらするので美味しいのかどうなのか。

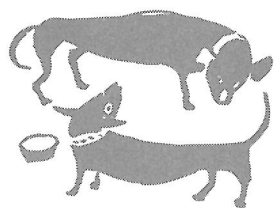
どうしたらいいのか自分でもよくわからないので、そうだ！これは休めしかないと思うので、久しぶりに休みます。三日間ですが留守にしますのでよろしくお願いします。民俗学を学んでいる娘とふたりで岩手県に行ってきた。車の運転は好きなので高速道路を飛ばすのは気持ちよいでしょう。

とかく休暇などという後ろめたいような気持ちがあり、また私が休暇を

とるためには段取りも必要なのでおつくうでしたが、自分の元気を保つために、また良い仕事をするためにも堂々と休んでも良い年齢になったのではと思います。冬には少し長い休暇をもらって一人旅でもしてみたいとも考えています。

先日、刑務所にいた人の体験談の漫画を読みました。何をするにも刑務官に「願いまーす!」と言ってからなのです。私も真似してみました。「有給休暇願いまーす!」「主婦にも休暇願いまーす!」

お彼岸の中日にはみなさん元気でまた集うことが出来ますように。



行事案内



・秋のお彼岸中日法要 九月二十三日（日）

午前十時半 安穩廟法要

十一時 彼岸会中日法要

十二時 おとき

午後一時 住職法話

どなたでもゆつくり静かにお参りいただけます。おときも当日受付でお申し込みください。

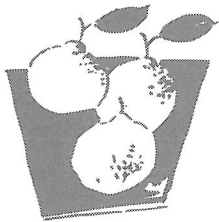
・お会式、戒名授与式 十一月十一日（日）

午前十一時 お会式、戒名授与式

十二時 おとき

午後一時 法話 戸沢宗充 法尼

準備の都合上、事前にお申し込みを願います。



あ・と・が・き



暑い夏でしたが皆様いかがお過ごしでしたでしょうか。夏の行事も何とか終え、また秋の行事が続きます。妙光寺は行事が多くこちらも忙しいのですが、皆さんも大変そうで参加される方が減少傾向にあります。どこかで整理と魅力アップが要るのかも知れないと考えています。

ご心配をおかけしましたが、体調も回復しています。秋は行事のほか法事も多く、ことのほか多忙になるので注意しつつ参ります。皆様方も夏の疲れがでませんように。

小川